



大学院大学・建築研究所共催シンポジウム

「GRIPS・IISEEによる防災対策における途上国への 人材育成を通じた技術協力の成果と今後について」



趣 旨：2005年から約20年にわたり、政策研究大学院大学（GRIPS）・建築研究所（BRI）国際地震工学センター（IISEE）・国際協力機構（JICA）はDMP（Disaster Management Policy Program）を通じて、人材育成の観点から途上国の防災対策を支援してきました。また、IISEEはGRIPSと連携する以前を含め60年以上にわたり技術研修等を実施し、地震・津波防災に関する専門人材の世界的ネットワークを形成しています。その成果として、日本の技術を基に、各国で建築物の耐震化の促進や地震観測・津波警報システムの整備が実現されるなど、開発途上国における安全・安心の実現が図られています。本シンポジウムでは、人材育成及び各国の共同研究や技術プロジェクトに関わった研究者から基調講演を頂いた後、各国で活躍中の研修修了生から、防災・減災分野での成果および今後の取り組みについて報告を頂き、今後の開発途上国の防災・減災政策の推進方策について議論します。

日 時：2024年12月6日（金）13:30～17:00

会 場：政策研究大学院大学（1階 A, B 室）とオンライン（ZOOM ウェビナー）

：無料・事前登録制 言語 日本語／英語 同時通訳付き

主 催：国立大学法人政策研究大学院大学、国立研究開発法人建築研究所

後 援：国土交通省国土技術政策総合研究所、（独法）都市再生機構、（独法）住宅金融支援機構、（公社）日本建築士会連合会、（公社）日本建築家協会、（一社）日本建築士事務所協会連合会、（一社）日本建築構造技術者協会、（一社）日本建設業連合会、（一社）マンション管理業協会、（一社）住宅生産団体連合会、（一社）日本建築学会、（一財）日本建築防災協会、（一財）ベタリーピング、建築研究開発コンソーシアム、（一社）防災学術連携体、（一社）日本防災プラットフォーム

プログラム

13:30-13:35 開会・進行：片山 耕治（政策研究大学院大学 教授）
 13:35-13:45 趣旨説明：藤井 雄士郎（建築研究所 国際地震工学センター長）
 13:45-13:50 挨拶：八尾 光洋 氏（国土交通省総合政策局海外プロジェクト推進課長）
 13:50-13:55 挨拶：緑川 光正 博士（元建築研究所 理事長、元国際地震工学部長）
 14:00-14:40 基調講演：齊藤 大樹 博士（豊橋技術科学大学 教授）
 「近年の地震被害の教訓と各国の建築物の耐震化への支援」

14:40-14:50 休 憩

15:00-15:30 「各国の防災・減災分野で活躍する研修生からの報告（その1）」

司会：芝崎 文一郎（建築研究所 シニアフェロー）

プレゼンテーション (1)

15:00-15:30 Emilio VENTURA 氏（エルサルバドル公共事業副大臣）
 「エルサルバドルにおける地震防災」
 Marino PROTTI 博士（コスタリカ国立 IUGG 委員会委員長）
 「中米における地震学の発展」

15:30-15:35 質疑応答

15:35-16:35 「各国の防災・減災分野で活躍する研修生からの報告（その2）」

司会：小豆畑 達哉（建築研究所 シニアフェロー）

プレゼンテーション (2)

15:35-16:35 Harsh K. GUPTA 博士（国際科学会議（ISC）フェロー、原子力規制委員会（AERB）委員、インド地質学会会長）
 「インドにおける地震学の発展」
 Weniza 博士（インドネシア気象・気候学・地球物理庁（BMKG）地震および津波対策コーディネーター）
 「インドネシアにおける津波早期警報システム」
 Ali Erhan YILMAZ 博士（トルコ環境都市気候変動省部長）
 「2023年トルコ・シリア地震の被害と今後の対策」
 Nabil MEKAOUI 博士（モハマディア工科大学/ラバト・モハメッド5世大学土木工学科講師・研究者）
 「2023年モロッコ地震の被害と今後の対策」

16:35-16:50 討 議 「今後の途上国の防災・減災政策の推進方策について」

16:50-17:00 その他 建研からのお知らせ

17:00 閉 会

◆参加登録方法（事前登録制）◆ ※登録した方へは後日動画配信の URL をお知らせします。

本シンポジウムは政策研究大学院大学（GRIPS）（1 階 A, B 室）および ZOOM（ウェビナー）によるオンライン開催となり、PC やスマートフォン等でご視聴いただけます（ZOOM のアプリをインストールして下さい）。

会場での参加をご希望の方は、URL 又は QR コードから、2024 年 11 月 29 日(月)までにお申込み下さい。

ウェビナーの視聴をご希望の場合は、URL 又は QR コードから、2024 年 12 月 5 日(月)までにお申込み下さい。

お申込 URL : https://grips-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_JrXo8U1QRXO7EZhQkmVWhg

参加費：無料。定員になり次第、申込を締め切らせていただきますのでご了承ください。

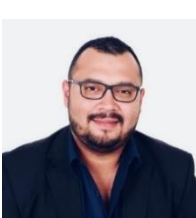
お問合せ：政策研究大学院大学・建築研究所共催シンポジウム事務局

(E-mail: grips.sympto@gmail.com)



講演者プロフィール

	藤井 雄士郎 博士 建築研究所 国際地震工学センター センター長 2003 年九州大学大学院理学研究科で博士（理学）を取得。九州大学情報基盤センター、産業技術総合研究所活断層研究センターを経て、2005 年から建築研究所国際地震工学センターにおいて、国際地震工学研修の津波防災コースを担当。2024 年 4 月から現職。津波シミュレーションや津波データに基づく地震の震源過程の研究を行っている。
	八尾 光洋 氏 国土交通省総合政策局海外プロジェクト推進課長 1994 年東京大学工学部 土木工学科を卒業。1996 年オックスフォード大学大学院理工学部修了。その後、1996 年に建設省企画部企画課に入省。 2003 年在中華人民共和国日本大使館二等書記官を務める。 2006 年国土交通省四国地方整備局道路部道路計画課長、その後 内閣府政策統括官（経済社会システム担当）付参事官（社会基盤担当）参事官補佐、国土交通省近畿地方整備局奈良国道事務所長を務め、2012 年アジア開発銀行（マニラ）へ派遣（東南アジア局 交通専門官）。 2015 年西日本高速道路（株）本社経営企画本部経営企画部計画調整担当課長となる。 2016 年国土交通省関東地方整備局千葉国道事務所長を務め、2019 年同省総合政策局公共事業企画調整課インフラ情報・環境企画室長、2020 年同省道路局企画課国際室長、2022 年同省中部地方整備局企画部長を歴任。2024 年現職に至る。
	芝崎 文一郎 博士 建築研究所 国際地震工学センター シニアフェロー、 元国際地震工学センター センター長 1993 年東京大学大学院、理学系研究科、地球物理学専攻で博士（理学）を取得。 1995 年から建設省建築研究所、国際地震工学部、研究員、1998 年にマサチューセッツ工科大学 長期在外研究員、2022 年から 2024 年 3 月まで国際地震工学センター、センター長を務めた。 研究テーマは、大地震の発生過程など。
	小豆畑 達哉 博士 建築研究所 国際地震工学センター シニアフェロー 1993 年千葉大学博士課程修了。 1993 年建設省建築研究所入所。 2014 年より建築研究所国際地震工学センターにおいて国際地震工学研修を担当。この間、国際地震工学センター長（2020～2021 年）、構造研究グループ長（2022～2023 年）を務め、現在は、国際地震工学センターシニアフェロー。
	緑川 光正 博士 北海道大学名誉教授、日本鋼構造協会会長、日本建築センター顧問、 元建築研究所理事長、元国際地震工学部長 1973 年に東京工業大学工学部建築学科を卒業。1979 年に同大学院博士課程を修了。その後、1980 年に建設省建築研究所に入所し、建築構造、特に鉄骨造の研究に従事。1989 年から国際地震工学部、地震工学分野の研修に貢献。2000 年の免震建築物に関する告示の公布・施行にあたり、その検証方法の整備にも関わり、2003 年に文部科学大臣賞（研究功績者）を受賞。2005 年から北海道大学大学院教授、2012 年に日本建築学会賞（論文）を受賞。 2017 年に（国研）建築研究所の理事長。国土交通省をはじめ国内外の各種委員会に学識者として参画、行政の円滑化や建設分野の発展等に貢献している。

	齊藤 大樹 博士 豊橋技術科学大学 教授 建築物の耐震評価や耐震性能向上技術に関する研究に従事。建築研究所在籍中は地震防災分野での海外協力に積極的に取り組み、現在は免震・制震構造など建築物の特殊装置を用いた地震応答制御技術の研究を行っている。
	Emilio Martin Ventura Díaz (エミリオ・マルティン・ベントウーラ・ディアス) 氏 (2006-2007 地震工学コース修了) エルサルバドル公共事業省 副大臣 エルサルバドルホセ・シメオン・カーニャス中米大学、土木工学部 (2004 年) エルサルバドルホセ・シメオン・カーニャス中米大学 講師 (2005~2017 年) 政策研究大学院大学 地震防災学修士課程修了 (2007 年) エルサルバドル公共事業省 気候変動・リスク管理戦略局局長 (2013~2017 年) スペイン 国際環境研修協会 (IIFA) 環境プロジェクト修士号 (2016) 「2021 年度 JICA 理事長賞」受賞 公共事業副大臣 (2017 年~2019 年) (2020 年~2024 年) (2024 年~現在)。
	Marino Protti (マリノ・プロッティ) 博士 (1983-1984 地震学コース修了) コスタリカ国立 IUGG 委員会委員長 コスタリカ国立大学国際関係学・外交学修士号 (2018 年) 米国カリフォルニア大学サンタクルス校地球物理学博士号 (1994 年) コスタリカ国立大学コスタリカ火山地震観測所研究員 (1986~1988 年、1997~2002 年、2019~) アメリカ地球物理学連合大使賞 (2022 年) イタリア大統領より星勲章 (騎士勲章) を授与 (2023 年) コスタリカ国立科学アカデミー (2004~2018 年事務局長) コスタリカ国立 IUGG 委員会委員長
	Harsh K. Gupta (ハーシュ・K・グプタ) 博士 (1966-1967 地震学コース修了) 国際科学会議 (ISC) フェロー、原子力規制委員会 (AERB) 委員 インド地質学会会長 インドの著名な科学者でヒマラヤとチベット高原地域の下にある極めて厚い地殻の発見、人工貯水池によって引き起こされた地震と通常の地震を区別する基準を策定したことで知られる。1983 年から 1984 年にかけて、南極の夏に記録的な速さでインド洋の津波警報システムの構築とインド初の越冬基地「ダクシン・ガンゴトリ」の設置を先導。近年は、固体地球物理学百科事典第 2 版 (Springer) を編集。
	Weniza (ウェニザ) 博士 (2009-2010 津波防災コース修了) インドネシア気象・気候学・地球物理庁 (BMKG) 国際地震工学研究所 (GRIPS) 修士号 (日本、2010 年) 地球物理学博士号 (インドネシア、バンドン工科大学) (2024 年) 津波警報課長 (2016~2019 年)、津波軽減課長 (2019~2022 年) 地震・津波軽減コーディネーター (2024 年) インド洋津波訓練 (IOWave) 議長 (IOWave20、IOWave23、IOC UNESCO ICG/IOTWMS) (2020 年、2023 年) ISO 22328-3 の開発者：津波に対するコミュニティベースの早期警報システムの実装ガイドライン (2020 年)

	Ali Erhan Yilmaz (アリ・エルハン・イルマズ) 氏 (2016-2017 地震工学コース修了) トルコ環境都市気候変動省 (日本の国土交通省に相当) 部長 現在は、環境・都市化・気候変動省で部門長。トルコのハジェッテペ大学で事前の都市変革を通じた防災策に焦点を当てた博士課程に在籍中。日本の政策研究大学院大学で防災管理の修士号を取得、トルコのカラデニズ工科大学で土木工学の学士号を取得。2018 年から 2021 年にかけて、トルコ共和国代表として欧州評議会の建物専門家の特別委員会メンバーを務めた。現在、環境・都市化・気候変動省で働いており、既存建物のクラウドベースの構造解析ソフトウェアの開発に貢献。また、「2019 年 既存建物の耐震リスク評価の原則」の開発者。
	Nabil Mekaoui (ナビル・メカウイ) 博士 (2017-2018 年地震工学コース修了) モハマディア工科大学、ラバト・モハメッド 5 世大学 モハマディア工科大学 (EMI) (モロッコ) で土木工学の学士号を取得後、地元で民間部門のプロとしてのキャリアをスタート。国際的な経験を積みたいという強い思いから、国立ポン・エ・ショセ校 (フランス) でヨーロッパ土木工学の専門修士号を取得し、IISEE/GRIPS (日本) で自然災害管理の修士号を取得。豊橋技術科学大学 (日本) で地震工学の博士号を取得。現在、EMI (モロッコ) の土木工学部門で講師および研究者。研究テーマは、地震工学と自然災害管理。